



## 働く

校長志村雅人

令和4年度も折り返し地点を過ぎ、2学期は2ヶ月が経ちました。9月から始まっている新人戦は男子ソフトテニス部、バレーボール部が県大会へ進み、他の部活動も各大会で優秀な成績を収めることができました。10月には合唱コンクールが3年ぶりに森のホールで開催され、生徒たちの素晴らしい歌声を保護者の前で披露することができました。また、外部から講師をお招きしてのSDGs講演会や授業を通して「自分らしさ」について深く考えることができました。さらに、小金地区の商業施設へ作品を出展したり、地域行事へ参加をしたりと、生徒たちの幅広い活動が行われました。その中で、様々な方たちとのふれあいがありました。生徒たちは仕事場で作業したり、イベントの会場で協力したりと、大人たちの活動や働いている姿を目にしてきました。

働くとは、「傍（はた）を楽（らく）にする」とよく言われています。傍とは、周囲の人や世の中の人を意味します。

つまり、「周りを楽にする、周りを楽しませる」と言い換えることができます。

さらに具体的に言い換えると、

「周りのネガティブ（否定的）な要素を減らすこと」あるいは

「周りのポジティブ（肯定的）な要素を増やすこと」

とも言えます。どちらかの取組ができることが、働くということになると言われています。これは、自分や他者に対して楽しくできる、役に立てるということにも繋がります。積極的に他者に貢献することが働くことで、その対価としてお金をもらうこととなります。

学校生活に置き換えてみましょう。活動や行動するとき、「文句ばかり言うてしまう」「不満ばかりを意見している」というのは、学校でいうところの「働く（活動する、行動する）」ことにはならない、ということになります。逆に「いいね!」「頑張っているね」など、肯定的な発言が多くなることで、周りから必要とされたり、自分も役に立っている実感が持てるようになるでしょう。

一人ひとりが働く（活動する）ことへの少しの工夫をすることで、学校という「社会」の中において生活に活気が出て、前向きな生徒が増えていくことを期待しています。今後も保護者や地域の方々とふれあう機会があります。生徒たちの成長を地域全体で見守っていければと考えております。どうぞ、よろしく願いいたします。